アラートメールによる Reveal LINQ 遠隔モニタリングの使用経験

◎田中 恵子[1)]、川合 みゆき[1)]、會田 志乃[1)]、古里 由美子[1)]、大江 雅宏[1)]、長岡 純二[1)]
山形市立病院 済生館[1)]

【はじめに】

潜因性脳梗塞（ESUS）患者の心房細動（AF）検出や失神の原因検索を目的とした植込み型心臓モニタ Reveal LINQ（RL，Medtronic 社製）は、従来型より小型化されて 2016 年 9 月に販売開始されている。当院では 2019 年 3 月より遠隔モニタリングシステム（Medtronic Care Link）を導入し、アラートメールにより RL から検出された患者イベント情報についてその有用性を検討した。

【対象と方法】

当院で 2019 年 3 月から 5 月までに CareLink 登録を行なった 9 例（ESUS 疑い 6 例、失神 3 例）を対象とした。朝にアラートメール受信を確認し、受信があれば CareLink にログインし患者イベントを確認した。医師に報告し、イベントレポートを提出した。

【結果と考察】

アラートメール受信件数は合計 24 件、観察期間は平均 66 日（13～99 日）であった。イベント詳細は、Symptom 9 件（初期作動時の患者起動：7 件、症状/患者起動：2 件）、頻拍 10 件、Pause 3 件、AF 2 件であった。①その中で患者起動により 15 秒の心停止が確認された症例も 1 例みられた。この症例は、送信された患者データでは詳細不明であったが、患者宅へ電話連絡したことで失神が発覚しペースメーカ植込みになった。②期外収縮や波形の脚ブロック変化を AF 検出とした例や、R 波の減高を Pause 検出とした偽陽性例もあり、心電図を熟知した検査技師が波形を確認することで不必要な報告を減らすことができると考えられた。③アラートメール受信日とイベント発生日に 14 日差があった例は、患者が入院して通信できない状態であった。この事例から通信エラーが継続している場合は対処が必要と感じた。④CareLink の導入により RL チェックのための外来受診間隔は 1～2 ヶ月から 6 ヶ月へ延長し、患者の負担軽減に貢献できると考えられる。

【まとめ】CareLink を用いた遠隔モニタリングは、心イベントの早期発見と治療介入が期待でき、RL チェックのための外来受診頻度も緩和できるなど有用であると思われた。

【連絡先】023-634-7117